一宮市国際交流協会ニュース

iia
ichinomiya
international
association

かけはし

2016
Vol.72
March

色とりどりのイタリア
野菜の育て方や食べ方など
を紹介するイベントがありました。

→関連記事 P 4

イタリア野菜を咲かせよう

（表紙デザイン：みかん）

日本語ひろばびさいで国際交流

日本語を教えて世界とつながる!

三条つどいの里

日本語ひろばびさいは、市民ボランティアにより13年前から日本語のできない外国人に日本語を無料で教えている教室です。勉強を始めようと思ったときに教室に来れば、すぐに教えてもらえます。現在この教室に学びに来る人（ゲスト）は、日本に３年間限定で働きに来ているベトナム・中国など東南アジアからの実習生や一宮に住む外国人で、毎週日曜日の午後の１時間半、みんなで勉強しています。

日本語ひろばびさいに通うゲストには、年２回の日本語検定試験合格を目指す熱心な人達と、日本語を自由に使い日本での生活を豊かにしたいとの希望を持つ人達がいます。彼らの希望に叶うように、ほとんどのゲストにボランティアがマンツーマンで付き、きめ細かく勉強を教えています。試験が近づけばラジカセで聴解に対応する勉強もしたりします。勉強の合間には、仕事場の話やプライベートなおしゃべりで会話力も高めています。

毎回の勉強の他にも、単調にならないよう年間を通してイベントが組まれ、ゲストとボランティアの交流の場となっています。７月には、浴衣を着ての盆踊り講習会。12月には忘年会を兼ねたお楽しみ会。昨年末のお楽しみ会では、午前中に日本のおにぎり、どら焼き、ベトナムの揚げ春巻きを、狭い料理室でワイワイ交流しながら作りました。午後はビンゴゲーム、手品ショー、フルーツバスケットなど。最後に、もうすぐ母国に帰国するゲストがここで学んだ日本語でお別れのスピーチをすると、惜しみない拍手が響きました。

２月には、ボランティアが奏者や踊り手となって日本舞踊を披露したり、お茶の先生の指導を受けながらお抹茶を味わう日本文化体験会。３月には、青春18キップを使っての小旅行。今年はみんなで京都を散策しました。

日本語ひろばびさいは、一宮市国際交流協会の１グループとして、ボランティア全員による自主運営が行われています。たくさんのゲストに日本語を上達してもらうには、まだまだボランティアが足りません。けっして難しいことはありません。外国の方と楽しく国際交流をしながらお手伝いください。（佐野）

短期ホームステイ

きれいな日本アリガトー！

一宮市役所本庁舎 会議室　11.29

今回のホームステイゲストはJICA中部の短期研修滞在者で、ブラジル、エチオピア、ナイジェリア、ルワンダ、スリランカ、タンザニア、マダカスカル、コンゴ等の各国のみなさんを12家族の方々が受け入れました。

初日、JICA研修員のホームステイ希望者がホストファミリーと対面式を行い、そのまますぐ、それぞれの家族といっしょに一宮市内等へ出かけて行きました。

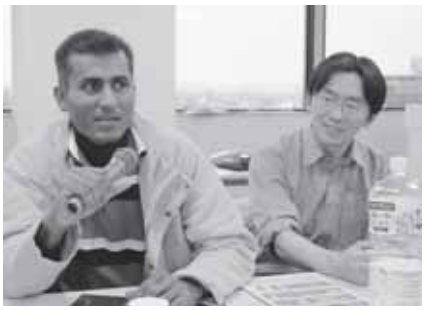
２日目、みなさんのホームステイが終わった午後から市役所本庁舎で送別会が催され、みなさんから披露されたホームステイの様子を少しご紹介します。

ルワンダからのイノさんは高木さん家にホームステイしました。「イノさんは尾西歴史民俗資料館へ行くととてもよろこび、彼が見たことがない養老山脈の景色に感激していました。また、ゲームセンターに行ったところ、とてもめずらしそうにしていたのに、上手だったのにびっくりしました。ホームステイはこども達のおかげでスムースに過ごせました」と高木さん。今度は高木さんのお子さんが一人でルワンダに行くと宣言。イノさんは笑いながら「ＯＫ」と、うれしそうでした。

「ブラジル三世のスズムラさんは日本語が話せたのでとてもよかったです」と、受け入れた横家さん。スズムラさんから「しめ縄作りがとても楽しかったです。でも、作り方は忘れました」「一宮ありがとう。国際交流協会の人たちありがとう。この経験は死ぬまで忘れない」と、上手にジョークを交えた日本語のお礼のことばに、会場が爆笑に包まれました。

コンゴのアヌシュカさんは宮川さんから味噌汁と肉じゃがの作り方を教わり、たこ焼きが楽しかったと、日本文化に触れた経験を笑顔で語っていました。

スタンさんを受け入れた岩下さんは、スリランカは紅葉がない国だそうで、ぜひ養老方面の紅葉を見てもらおうと出かけました。喜んでもらったのはよかったのですが、彼は最後まで日本食になれない様子だったので、日本のカレーを食べに行くことになったそうです。文化や宗教などの違いで多少困惑しましたが、よい経験ができてよかったと話していました。



あまり英語が得意でない加藤さんは、スリランカのトゥシャンさんの話が分からなくて、最初はフィーリングで適当に“YES”と返事をしていました。が、聞き返されることがあったそうです。これはいけない、コミュニケーションの一歩は会話からだと思ったそうです。でも「子どもがけっこう面白がっていい経験になりました」と楽しそうでした。英語が十分話せなくてもホームステイは楽しかったと、体当たり的ホームステイ経験談が紹介されました。

タンザニアのカトイブさんから、日本でDVDプレイヤーを買いたいと相談された近藤さん。市内の電気屋に行くと、その国の規格に合ったものがなく、大須の電気屋さんも訪ね歩いたそうです。もうだめかとあきらめかけたとき、ディスカウントショップで販売されているとの情報を得て、ようやく購入することができました。彼の予算は残り少なかったのですが、その範囲内で買えて彼はとても大喜び。その感激を披露して笑いを得ていました。

ホームステイは経験がなくても、“案ずるより生むがやすし”なのかもしれません。そして子どもたちのパワーが、立派に国際親善大使の役割を務めてくれたようです。（ドリアン）

友好都市トレビーゾ市事業
イタリア野菜を咲かせよう

１月14日、15日の２日間にわたって、南房総でイタリア野菜を栽培している田倉（たくら）ファーム代表の田倉剛（たくらたけし）さんと、イタリア出身のアレサンドロさんを講師に、イタリア野菜についていろいろ教えてもらいました。

１日目　一宮とイタリア野菜のマリアージュ　（ガーランズ）

最初に田倉さんがイタリア野菜の品種や栽培技術、食べ方、売り方など話されました。当然、日本とは気候や土壌など違うことも多く、種の発芽率も１割くらいで、ずいぶん苦労したそうです。とくに野菜は日本のように全国同じものは少なく、地区ごとに違う野菜を作っており、その地区ではポピュラーなものでも隣の地区では全然知らないことも多いということです。

講演のあとはガーランズ料理長の手によるイタリア野菜を使った昼食会。心のこもった最高においしい料理をいただきました。

参加者には市の「はつらつ農業塾」※の卒業生も多く、４期生の後藤恵子さんは卒業生10人ほどで野菜作りをしており、北小渕など数ヶ所で朝市など開いているそうです。参加者にはイタリア野菜の種も配られましたので、ぜひ一宮でイタリア野菜を咲かせてみてほしいですね。

※農地の遊休化の解消と農業の明るい未来のため、市と農協が実施する農業指導塾。

２日目　イタリア野菜を身近に感じる料理教室　（開明公民館）

ミラノ出身で一宮在住のアレサンドロ・セニガリエズィさん指導による料理教室。イタリア野菜の特徴は「見た目に美しい」、「食べてもおいしい」ことだそうで、料理は家族で囲んで楽しむものだといいます。

25名あまりの参加者がトレビーゾのラディッキオのリゾット、にんじんケーキ、ミネストローネづくりに挑戦しました。

参加者の柴垣充さんは勤め先のお店でランチを任されているそうで、「イタリア野菜で作る料理は高級品というイメージがあったが、実際に作ってみて身近に感じられるようになった。お店のメニューに取り入れられるといいな」と話してくれました。（橋本）

ふれあい ウォーキング

墨会館 周辺　11.3

海外の人たちと交流しながらウォーキングを楽しむイベントが、国登録有形文化財・墨会館の周辺でおこなわれました。参加者は外国人26人と日本人家族、ボランティアを含め、総勢100人を超える大人数でした。

ＥＵ、アジア、アフリカ等、15ヶ国のいろいろな国の方々が参加し、１つのグループに日本人、外国人が混在するようグループ分けをしました。11のグループに分かれて、交流ウォーキングを楽しみます。「おはようございます」とあいさつから始まり、名前、出身国などの自己紹介がされ、うちとけてから、お話が弾みました。

ウォーキングは墨会館を出発して三岸節子美術館→大明神社→尾西歴史民俗資料館→金毘羅社をチェックポイントに、煙突やのこぎり屋根の歴史建築が残る古い街並みを回る約４ｋｍのコースです。

５ヶ所のチェックポイントには、案内ボランティアがクイズボードを用意して、参加者の皆さんの興味を引き付けます。

「歴史民俗資料館の前の道路は江戸時代にはなんと呼ばれていましたか？」

答えは木曽路、伊勢路、美濃路の中から選びます。

子どもたちが「う～ん、なんだろう？」「美濃路でしょ」と、楽しそうにボランティアに回答していました。次に「ニュージーランドの国鳥は？」の難しいクイズにも、「キーウィ」とすぐに答えた、ニュージーランドのことを良く知ってる女の子もいました。

墨会館に帰ると美味しいにおいのお出迎えです。お腹が空いてよけいにこたえます。外国と日本の料理ボランティアさんがお国自慢の料理を作りました。

イラン：ファラフェル（豆のナゲット）
中国：ジャガイモ巻き餅（野菜の春巻き風）
ウズベキスタン：シャシリク（肉の串焼き）
フィリピン：ハロハロ（野菜とフルーツのデザート）

日本の人たちにも美味しい味付けで、とても楽しいウォーキングと食事会でした。（akeharu）

国際交流ふれあい運動会
優勝はビーズ(ハチさん)チーム

総合体育館　1.24

国際交流協会のスポーツイベントとして定着してきたソフトバレーボール大会。2016年は総勢140人の参加があり、生き物の名前をチーム名とした全18チームの皆さんが互いの腕前を競い合いました。

ソフトバレーボールをスポーツイベントとして取り上げるようになってから、かれこれ十余年程続けているのですが、当初はあのボールの柔らかい感触に戸惑い気味だったためか、参加者の珍プレーは続出していました。しかし、今大会を見る限り参加者はもちろん、応援のスタッフボランティアもボールの扱いに慣れてきたためか、今までになく見応えのある白熱した好プレー満載の大会になりました。

もちろん、相変わらず珍プレーも多く、会場である体育館のあちらこちらで、大きな笑い声が爆発していました。

あっという間に予選リーグが終わり、いよいよ優勝を争う決勝大会に場面は移ります。

はじめは楽しんでいるだけだったはずのチームも、優勝が間近であることを意識すると、さすがに表情が引き締まり、優勝決定戦に至ってはプレーヤーの表情は真剣そのもの。

最終的にはビーズチームが優勝！強いとか上手いということではなく、ゲームを最も楽しんだチームが優勝したようですね。（you都市）

ボランティア交流会
iia25周年記念事業をみんなで考えよう！

墨会館　2.7

日頃はグループに分かれて活動しているボランティアが、年に一度集まって交流する総会が墨会館で行われました。

最初は、クッキング班によるおいしいタコスやミラノ風カツレツをほおばり、自己紹介をし合いました。「ニュージーランドで羊を枕に寝てみたい」「キューバの海岸をもう一度歩いてみたい」など、自分が行ってみたい国ややってみたいことを織り交ぜながら会話をすると、いろんな人となりが伝わってきます。

その後、来年度25周年を迎える国際交流協会(iia)の記念事業を考えるプログラムをしました。ルールは簡単。iiaの理念・目的に適うものならユニークなアイデア大歓迎。模造紙に思いついた事業のキャッチコピーやウリを書き、１分間のプレゼンをし、投票します。楽しいことがしたい!!という気持ちはみんな一緒、よく笑い、よくしゃべり、団結力も高まりました。

この日の高揚感を持続して来年度もイベントを行う予定です。たくさん参加してくださいね。

おとなりさん

今回の「おとなりさん」は、私、国際交流員のロザンナが、自分のパートナー、ニュージーランド出身のキャラン・セイトを紹介します。

２人が出会ったビクトリア大学で、文化人類学を勉強したキャランは、実際に異文化と触れ合ってみたいという思いと、就職する前にいろいろな経験をしたいという気持ちがきっかけで、違う国へ行くことを決めました。そして、ちょうど私が一宮市で働いているということで、日本に来ることになりました。

成田空港に到着してすぐ、テレビ番組「Youは何しに日本へ？」のインタビューを受けさせられましたが、12時間以上の長旅と時差ボケのせいで、当時のことはほとんど記憶に残っていないようです。（結局オンエアもありませんでした。）

日本に着いて最初の印象は、丁寧な人たちと、能率の高い施設や移動手段、とのこと。過剰包装の見直しとリサイクルにはもう少し努力してほしいという思いも持っていますが、実はそれは私も同感です。

一宮の感想を聞くと、キャランの故郷ニュージーランドの「タワ市」に似ていると語ります。静かで、やさしい人にあふれていて、安全なところがそっくりです。田舎のようにゆっくり過ごせるところでありながら、大きい街はそう遠くないので便利というところも。

キャランは保育園や塾で英語教師を務め、思ったより大変な仕事だということに気づきました。大学院でリサーチをしていた頃よりもずっと疲れた顔をして帰ってきますが、それでも楽しいと言っています。仕事では子どもと英語でしか話さない決まりがあるため、日本語でお話ができないのが少し寂しくて残念だ、とよく言っています。

キャランは今年中にニュージーランドに帰ってしまいますが、「良い人がたくさんいる、良いところなので、ちょっと悲しい」と言っています。

来日してすぐ仕事を始めたので、日本はあまり旅していません。帰る前に日本をちゃんと観光することを楽しみにしています。２人で出かける機会も少なかったので、帰る前にできたらいいなと、私も思っています。

日本語を勉強し続けたいといつも言っています。２人でもよく日本語でちょっとした会話をしますが、ホームシックのときにニュージーランドの訛（なま）りや方言で会話ができると落ち着きます。日本から離れると日本語を使う機会があまりなくなり、なかなかモチベーションが出ないかもしれないけど、また日本語で会話ができるよう頑張ってほしいな。

（国際交流員 ロザンナ）

編集後記

夕方の散歩道、「陽が長くなった…」と思う今日この頃であるが、このかけはしが発行される頃には朝夕はもっと明るくなっているだろう。こういうとき巨大な時間の中で人は生かされているのだと実感する。ふと気付くと我が妻は今年の末には還暦を迎えるそうな。自分の相方が還暦になることに愕然とし驚くが次の瞬間、還暦をとうに過ぎた自分に気が付く。時間に流されまい、時に押し潰されまいと必死に抵抗を試みても、時の流れは誰にでも平等に訪れてくる。世界中の誰にでも、静かで平和な時がいつまでも続きますようにと祈るばかりの今日この頃である。（you都市）

地球あっちこっち

加藤　菜絵さんは、一宮市出身。現在ワーキングホリデーの制度を利用し、フランスで仕事をしながら学校へ通っています。

仏 ノルマンディで暮らして

加藤（かとう） 菜絵（なえ）

2015年11月14日朝。土曜日ということもあって、私はその日、いつもより遅く起きた。寝ぼけながら携帯を見ると、これまでにない量のメールが届いていた。真っ先に頭に浮かんだのは、「日本で何か起こったのか!!」ということだった。一気に目が覚め、急いでメールを確認した。すると、どれもパリのテロ事件を心配する内容だった。パリ？テロ？…すでに起きていたホストファミリーは、状況をつかめていなかった私に全部説明してくれた。事件は衝撃的であったが、パリから離れて暮らす私の生活は前日と変わらず続いていた。事件以降、私の街で唯一変わったことはショッピングセンター等への入場に手荷物検査が必要になったくらいだ。また、クリスマス直前にパリを訪れたが、街はいたって落ち着いている印象を受けた。パリジャンの友達いわく、毎年この時期はもっと観光客がいるそうだ。

私はフランス北西部ノルマンディ地方で生活している。ノルマンディ地方はチーズの名産地だ。中でもカマンベールチーズは世界的にその名を知られている。しかし、それ以外にも様々なチーズが存在し、少しずつ味や食感が異なりその多様さに驚く。私のお気に入りは「ヌーシャテル」と「シェーブルチーズ」である。ヌーシャテルはノルマンディ地方名産チーズの一つである。ハート形をしており、かわいらしいのだがクセは結構強い。我が家ではバゲットと一緒にメイン後に食べる。シェーブルチーズとはヤギのチーズでこちらも好みが分かれるが、病みつきになる味だ。特に、「シェーブルチーズとほうれん草のラザニア」は渡仏以来の大好物である。

そして現在は、学校に通いながら日本食レストランでウエイトレスとして働いている。「日本食レストラン」なのに日本人は私だけ。同僚の言っていることやお客さんの注文が聞き取れず苦労することも多いが、働いてみないと分からないことも多く楽しい。興味深いのは、お客さんは注文する際、ウエイター/ウエイトレスを大声で呼ばない。じっと待つのだ。近くに通りかかった際に呼び止めることはあっても、「すみませーーーん」と遠くからは決して呼ばない。メニューを選び終わったら、メニュー表を閉じテーブルに置いて待つ。それがウエイター/ウエイトレスへの合図である。また、料理はアントレ→メイン→デザートの順番で出すというのも日本とは異なる。みそ汁やサラダはアントレにあたり、メインは寿司・焼き鳥である。日本人の感覚だと、寿司と一緒にみそ汁を飲みたくなるが、ここはフランス。みそ汁を全部飲み終わらない限りメインの寿司が出てくることはない。私達ウエイトレスは、常にお客の食べ具合を気にし、終わるタイミングを図りながらサービスするよう言われている。

ノルマンディ特有の木組み家の町並み

ホームステイ先での他の学生との写真

さて、一般に「フランス人」というとどのようなイメージだろうか。どちらかといえば個人主義で他人に干渉しないというイメージを持っていた。しかし、今ホームステイしている家庭をはじめ、少なくとも私がこれまでに出会ったフランス人はそうではない。時にはお節介ともいえるほど面倒を見てくれる。例えば、私が仕事を見つけるまでホストマザーは毎日のようにアドバイスしてくれた。私のヒアリング力が十分でなかった頃は毎週のようにフランス映画（初心者でも分かりやすいコメディなど楽しめる映画）を、夕飯の後に一緒に見ていた。

当初は3週間だけのホームステイの予定が気付けばすでに半年近く経っている。その間に20人以上の学生がホストファミリー宅に滞在していた。彼らとの出会いも私のフランス生活の思い出の一つである。海外の友人は「またね！」と言っても、再会の保証はない。だからこそ一緒にいられる「今」がいかに重要か。無理をしてでも時間を作り、会える時に会うことの大切さを強く感じている。そうして築いた絆を大事に、残りの期間のフランス生活も楽しく過ごしていきたい。

発行　一宮市国際交流協会　（〒491-8501　一宮市本町2-5-6　一宮市生涯学習課内）

ご意見・ご感想お待ちしています　【TEL:0586-85-7076　E-mail:kokusai@city.ichinomiya.lg.jp】
当協会に関する情報はウェブサイト・Facebookページもご覧ください
【WEB:http://www.city.ichinomiya.aichi.jp/iia/　Facebook:https://www.facebook.com/iia138】
＊この「かけはし」は、協会ボランティアにより取材・編集されています。
みなさんも国際交流協会親善ボランティアに参加しませんか？お気軽にお問い合わせください。